
研 修 ノ ー ト

米国の耳鼻咽喉科アレルギー専門医認定試験

Examination and Certification of Otolaryngic Allergists in USA

キャメロン・A・ギレスピー*

(訳と解説: 小林武夫**, 今村祐佳子**)

アメリカ耳鼻咽喉科アレルギーアカデミー(以下 AAOA と略す)は、アレルギーの診療および治療を専門とする耳鼻咽喉科認定医の集まりである。このアカデミーはアメリカ医師会 (AMA) に代議員をだしている。アメリカ耳鼻咽喉科専門医評議会 (American Board of Otolaryngology) のスポンサーでもある。1941年に創立され、2200名以上の会員を擁する世界でも有数のアレルギーアカデミーであり、アレルギー疾患に関する問題を扱うことでは最も由緒ある学会のひとつである。

アレルギー疾患の診療は、耳鼻咽喉科臨床研修のなかでも一般的なことであり極めて重要なことである。AMA は1976年のレポートで次のように位置づけている。

＜アレルギー疾患患者の診察は耳鼻咽喉科臨床研修の中で大きな位置を占める。(中略)……耳鼻咽喉科のレジデントの研修はアレルギー患者の診察を含まねばならず、アレルギーの分野で十分な経験を積ませることがレジデント教育の必須項目である。耳鼻咽喉科レジデントが研修の一環としてアレルギー疾患の診療に関与するとき、あるいは耳鼻科医が実地診療を行う際には医師と患者の双方は診療行為の必要性を認識しており、これに対して保険会社より代価が支払われなければならない。＞

アレルギー疾患の診断と治療はレジデント教育のプログラムに含まれるべきものである。そしてこのプログラムは卒業教育調査委員会に認定されなければならない。アレルギー疾患の診断と治療は、アメリカ耳鼻咽喉科認定医の試験でも出題される。しかし AAOA の認定医試験で行われる筆記および口頭試問はさらに厳しいものとなっている。

試 験

ワシントンで行われた AAOA の1996年の年の大会では試験(医師あるいは医師以外の会員を対象とする)について意見が交わされた。以下に、試験準備のための重要な資格の案内と基準を挙げる。細目は1996年2月1日に、すべての会員に郵送された。

志願者の資格:

1. 1991年9月4日から1996年9月6日の間に AAOA が主催または認定した90時間の生涯医学教育 (CME) を受けていること。この90時間のうち30時間は過去5年間の間の AAOA basic course であること。90時間中、65時間までは Home study course でもよい。
2. 過去3回のうち2回の年次大会に出席していなければならない。1996年の大会は、志願者が学術講演会に出席していればカウントされる。1995年と1994年の大会についても同様である。
3. 過去2年の AAOA の会費を払っていること。

試験の実際

受験の申し込みが完了すると志願者は受験資格があるかどうか知らされる。資格有りと判断されると、まず試験委員会の4症例の症例報告を提出しなければならない。委員会により症例報告が検閲されると、志願者は1996年9月26日に行われる試験の最終案内を受け取る。

1. 症例報告

あらかじめ提出する4症例のうち1例は食物アレルギーによるものでなければならない。主訴、検査、治療、経過その他を2ページにまとめる。最低6カ月の経過観

* Cameron A. Gillespie, The Gillespie Clinic, Assistant Consulting Professor of Duke University, Consultant of NIH

** 帝京大学医学部耳鼻咽喉科

察があったものに限られる。検査、治療は AAOA のガイドラインに沿ったものでなければならない。

2. 筆記試験

試験は難しいが、おもに以下の推薦図書から選ばれ、200問が出題される。基礎臨床を含む。○×式である。筆記試験は2時間にわたって行われる。

1. Skin Endpoint Titration, edited by Richard L. (ISBN 0-86577-525-7).

Mabry, M. D.

2. An Otolaryngologist's Guide to Allergy, (ISBN 0-86577-338-6).

by Hueston C. King, M. D.

3. Otolaryngic Allergy and Immunology, by Helen F. (ISBN 0-7216-2867-2).

Krause, M. D.

4. Home study in Otolaryngic Allergy, edited by (ISBN 1-887064-01-X).

Jacquelynn P. Corey, M. D.

5. A Detailed Monograph provided by the AAOA, written by Bruce Gordon, M. D., on immunology.

3. 口頭試問

これに続いて先に提出された症例報告に基づいて AAOA 会員が口頭試問を行う。試験官はガイドラインを持っており、アレルギーの分野に関する全般的理解があるか、またアレルギー診療における原則と特殊治療に精通しているかについて標準的の質問を行い、合格・不合格の判定を行う。3人の試験官が1人の受験者に1時間ずつ接する。計3時間の口頭試問となる。かなり厳しい質問もでる。

4. 合格発表

結果は試験当日に公表される。合格者はその夜行われるパーティーで耳鼻咽喉科アレルギー科診療を行う資格を持つ AAOA の正会員として迎えらるることになる。1996年は50人の受験者に対して37人が合格した。

5. 受験料 100\$

解 説

本手記は1996年9月に行われたアメリカ耳鼻咽喉科アレルギーアカデミー (American Academy of Otolaryngic Allergy) の専門医認定試験に高得点で合格した友人の Dr. Cameron Gillespie に書いてもらったものである。先にのせた Dr. Neuman による「アメリカ耳鼻咽喉科専門医試験について(本誌1997年2月号)」の続編として読んでいただければ幸いである。

Dr. ギレスピーは横須賀の米海軍病院に軍医大佐として勤

務したあと、現在はヴァージニア州で耳鼻咽喉科を開業している。潜水医学・高圧医学の専門家で、Scott-Brown のテキストの1996年版の一章を執筆している。最近、彼が来日した折に文意不明の点を質問して解答を得たので、それにより本文を補うことにする。

1. 試験は耳鼻咽喉科専門医の資格を有するものが、年会費を払って AAOA の準会員になり、この学会の研修ガイドラインに沿って学習し、受験資格を得る。90時間のコース学習が課されるが、1997年の案内では100時間に増えている。

2. あらかじめ提出する症例報告には、食物アレルギーを入れる必要がある。日本ではまれであるが、アメリカでは多いのであろうか。

3. 筆記試験は多くの設問を短時間で解答するという厳しい試験である。口頭試問で3時間もの面接を受ければ、まず受験者の評価を誤ることはないと思われる。

4. 試験は AAOA の年次学会会期中に行われ(試験の時間は学会講演はない)、夕方には合格が発表される。

5. 受験料は100ドル(1997年からは200ドル)で高くはないが、AAOA の年次大会や講習会への参加が必須で、少なくとも年に2000ドルはかかり、これを3年間続けることになる。上記に参加すれば、開業を休むので当然減収になるとこぼしていた。将来に対する投資と考えているのである。現時点では AAOA の専門医になっても経済的には何のメリットもない。しかし、現在、全米で猛威をふるっている HMO (Health Maintenance Organization) なる営利保険会社がアレルギー疾患の治療は、AAOA の専門医によるもののみについて支払いをするという出しかねないので、そのために専門医の資格を持った方がよいという訳である。また、耳鼻咽喉科医が、年をとって手術ができなくなる年齢に達してもアレルギー疾患の治療には差し障りがないという計算もあるのである。

6. 合格となっても認定免状を受けるのに、日本のようにさらに認定料を払うことはない。合格発表の夜のパーティ参加料(125ドル)のみが認定料であると笑っていた。

アメリカでは人口の20%がアレルギー疾患をもつという。Dr. ギレスピーの診療所では毎週5人の耳鼻咽喉科アレルギー疾患の新患を受けつけている。初診時の検査には、かなり時間がかかる。175~250ドルが請求される。このあとは患者は月に1回の通院で50ドル(年に600ドル)程度の支払いを請求されて follow される。彼はアレルギー外来のため、専門の検査室をもうけ、AAOA の講習をうけた有資格のナースを雇っている。

さて、日本でもアレルギー性鼻炎は近年著しく増加した。ところが、多くの患者は近くの内科医や眼科医によって治療されており、点鼻薬まで処方されている。これらのアレルギー性鼻炎の患者を耳鼻咽喉科にもどすには、我々はどうしたらよいのであろうか。日本ではアレルギー学会が専門医を設定しているが、耳鼻咽喉科でこの資格をもつ者は多くない。我々はギレスピー氏ほどの危機感をもっていないのである。耳鼻咽喉科医のアイデンティティを保持するには、一層の努力が必要である。